

平成8年度演習林年報

<https://doi.org/10.15017/18590>

出版情報：年報（九州大学農学部演習林年報）。1996, 1998-03-26. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

IV. 福岡演習林

A. 活動概要

1. 研究

本年度、福岡演習林を利用して行われた研究は以下のとおりである。

- (1) スギの培養細胞におけるノルリグナン類の生成
 - (2) スギ心材フェノール成分の培養細胞における生成
 - (3) 生長ホルモンを与えたスギ樹幹の木部形成年輪構造
 - (4) ラクウショウカルスにおけるノルリグナン類の生産
 - (5) 広葉樹繊維長に關与する因子に關する研究（以上林産学科）
 - (6) 森林情報システムの整備に關する研究
 - (7) ヒノキ林分成長予測に關する研究
 - (8) 針葉樹人工同齡林における樹高成長量の林木間変異
 - (9) システム収穫表に關する研究
 - (10) 暖温帯林における先駆性樹種の水分生理特性
 - (11) 広葉樹の発生に關する研究
 - (12) 森林水文に關する研究（以上林学科）
 - (13) 森林における酸性降下物の動態に關する研究
 - (14) 山地小流域の降雨流出機構に關する研究
 - (15) 六演習林共同スギ品種地域特性に關する研究
 - (16) 食用菌茸類の栽培に關する研究（以上演習林）
 - (17) ツバキ品種に關する研究（農学科）
 - (18) 草地土壤における硝酸化成菌の生態に關する研究（農芸化学科）
 - (19) 蝶のモニタリング（比較社会研究科）
 - (20) 磁氣に關する研究（理学部物理学科）
 - (21) 森林における放射生降下物の分布と挙動（理学部アイソトープ総合センター）
- 同早良実習場を利用して行われた研究は以下のとおりである。
- (22) 海岸クロマツ林内に生育するアカメガシワの根萌芽の分布
 - (23) 電撃印加によるマツノザイセンチュウの増殖抑制効果に關する研究（以上林学科）
 - (24) 都市林造成手法およびその管理に關する研究
 - (25) マツ枯れ跡地の緑地造成法に關する研究
 - (26) 都市林野火災に対する抵抗林分の造成に關する研究
 - (27) 海岸砂地の緑化に關する研究（以上演習林）
 - (28) クロマツ養分循環試験
 - (29) 周辺の土地利用の変化に伴う地下水位の低下について（以上熱帯農学研究センター）
 - (30) 福岡都市域内における雨量の局地性に關する研究（農業工学科）

2. 教 育

(1) 実 習

福岡演習林においては、9月に森林測量学実習（林学科3年生他15名）、10月に森林工学実習（林学科3年生他16名）、3月に造林学実習（林学科2年生他22名）と森林工学（砂防工学）（林学科3年生他16名）の学生実習が行われた。

また、4月には例年行われる新入生のためのオリエンテーションの一環として、農学部新入生283名が福岡演習林を見学した。

(2) 来演者

福岡演習林の来演者の総数は5,910名であった。内訳は、本学の教官および院生学生等1,184名、他大学や研究機関の研究者393名、林業関係者32名で、残りの4,301名は地元の小中学生ほか一般の利用者である。

同早良実習場への来演者の総数は2,361名で、内訳は、本学の教官および院生学生等が373名、他大学や研究機関の研究者が73名、林業関係者578名、残りの1,337名は地元の小中学生ほか一般の見学者である。海岸マツ林の保全に携わる関係者の視察が多かった。

3. そ の 他

(1) 早良実習場の一部売却

九州大学の移転に伴う土地処分の一環として早良実習場の一部約17haを1996年度から1998年度までの3カ年で売却する方針で、本年度はそのうちの5.4549haが福岡市に売却された。福岡市は全区域の入手が完了してから公園整備に着手する予定である。

(2) 九州大学公開講座「森林を科学する」の開催

演習林主催の公開講座「森林を科学する」が、8月5～9日の3泊4日で開催された。受講者は24名だった。終了後、記念植樹林B区内にウバメガシの苗が受講者の手で植樹された。

(3) 林道の開設

1992年度から開設が進められていた大杉林道が1995年度で予定地点まで開通し、96年度より6林班から21、22林班にかけて開設する生ヶ谷林道に着工した。本年度は、延長1,770mのうち入り口部分の346mが開通した。

(4) 売却予定地の大径木の移植

福岡演習林9林班の売却予定地内にあるコナラ、クスノキ、アラカシ、ヤマモモ、カクレミノなど29本の大径木を、事務所構内および周辺に移植した。これらは当地の自然林の一般的な構成種で特に稀少というわけではないが、売却後は土地造成のために樹木が全て伐採される予定であるため、大径木の保全を図る措置である。

(5) 説明版の設置と案内リーフレットの作成

1995年度から資源植物園内を中心に説明版など見学利用のための整備を進めているが、本年度も説明版10基を設置した。また、資源植物園の案内リーフレットを2000部作成し、利用者に配布している。

B. 試験研究資料

1. フェノロジー調査

全国大学演習林協議会の共同研究である樹木フェノロジー調査を、9,10林班のクヌギ、コナラ、ミズナラ、コブシおよびソメイヨシノの5樹種各1本を対象に行っている。1996年度の開葉、開花等の状況は次のとおりである。

(大崎 繁・鎌倉邦雄)

表-1 標本木の開葉、開花、紅葉および落葉日

樹種	開葉	開花	紅葉	落葉
クヌギ	96. 4. 16 97. 4. 8		96. 10. 29	96. 11. 12
コナラ	96. 4. 23 97. 4. 15		96. 11. 12	96. 12. 17
ミズナラ	96. 4. 9 97. 3. 25		96. 10. 15	96. 10. 22
コブシ	96. 4. 23 97. 4. 15	96. 4. 2 97. 3. 25	96. 11. 26	96. 11. 26
ソメイヨシノ	96. 4. 30 97. 4. 15	96. 4. 2 97. 4. 1	96. 9. 10	96. 9. 17

2. リュウノヒゲスギ (ササノスギ) の植栽

強風害に対する耐性が強い上津江村産のスギ品種、リュウノヒゲスギを、1994年に15林班と小班に植栽し生育状況を継続調査している。

(大崎 繁・椎葉康喜・井上一信・鎌倉邦雄)

表-2 リュウノヒゲスギの生育調査結果

(単位cm)

標本木	採取部位	発根促進剤	植栽時 (1994年5月23日)			4年目 (1997年5月1日)		
			本数	平均根本直径	平均樹高	本数	平均根本直径	平均樹高
1	下	有	10	0.78	46.9	9	2.24	102.9
		無	7	0.65	45.6	5	1.76	93.6
	中	有	9	0.73	43.4	9	1.84	82.9
		無	2	0.70	43.5	2	2.41	92.3
	上	有	4	0.81	56.5	3	2.21	84.9
		無	2	0.64	35.0	1	1.08	68.1
2	下	有	10	0.64	29.2	6	1.88	97.0
		無	5	0.53	35.8	3	2.54	114.6
	中	有	10	0.61	34.3	7	1.76	88.6
		無	1	0.72	42.0	1	1.53	64.6
	上	有	13	0.73	32.8	9	1.07	76.2
		無	11	0.58	29.9	7	1.54	80.4
3	下	有	12	0.70	39.1	12	2.28	107.6
		無	14	0.61	35.9	11	1.87	92.7
	中	有	10	0.53	24.4	6	1.47	74.8
		無	3	0.73	35.3	2	1.78	78.7
	上	有	13	0.77	37.6	10	1.57	75.5
		無	8	0.60	29.9	7	1.54	74.9
4	有	38	0.76	50.4	19	2.02	101.2	
	無	20	0.63	39.6	17	1.76	91.9	
5	有	14	0.96	60.6	12	3.00	126.2	
	無	9	0.80	46.3	7	2.50	109.9	